



# 教員養成のグローバル化に向けた挑戦

東京学芸大学 長谷川正／下田誠

## 第8講の柱（問い）

### ①教員養成のグローバル化の背景や必要性について

—教職課程のカリキュラムやプログラムがグローバル化に対応する必要性

—教職課程に学ぶ学生が国際的視野を身につける必要性

### ②教員養成のグローバル化と学生の学びに関わる具体的な事例

—制度設計のあり方

—学生の成長と満足度

# 教員養成のグローバル化の必要性

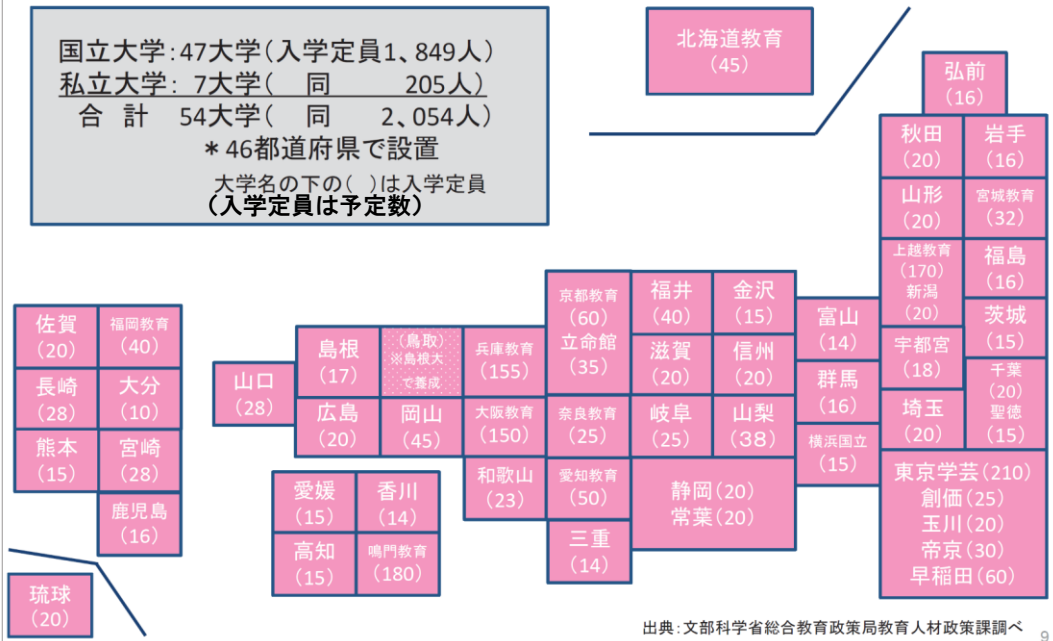
- 次世代の育成にあたる未来の教師（＝教職課程に学ぶ大学生・大学院生）に求められる広い視野・関心
- 異文化理解と共に多文化共生（又は共存）の態度、価値観を育む
- 答えのない難しい課題に果敢に立ち向かう態度、チャレンジ精神、勇気、気概を育てる
- 現在の日本の学校・教師・教員養成のあり方を相対的にとらえる必要性、次の時代を拓くヒントを得る
- 世界の先駆的な教育環境、教育方法、教育技術等から得る発見、その応用の可能性
- アジアそして世界の同世代とのネットワーク構築、次代の学校教育や教員養成を担う若者の交流
- etc.

# 教員養成をめぐる環境の変化①

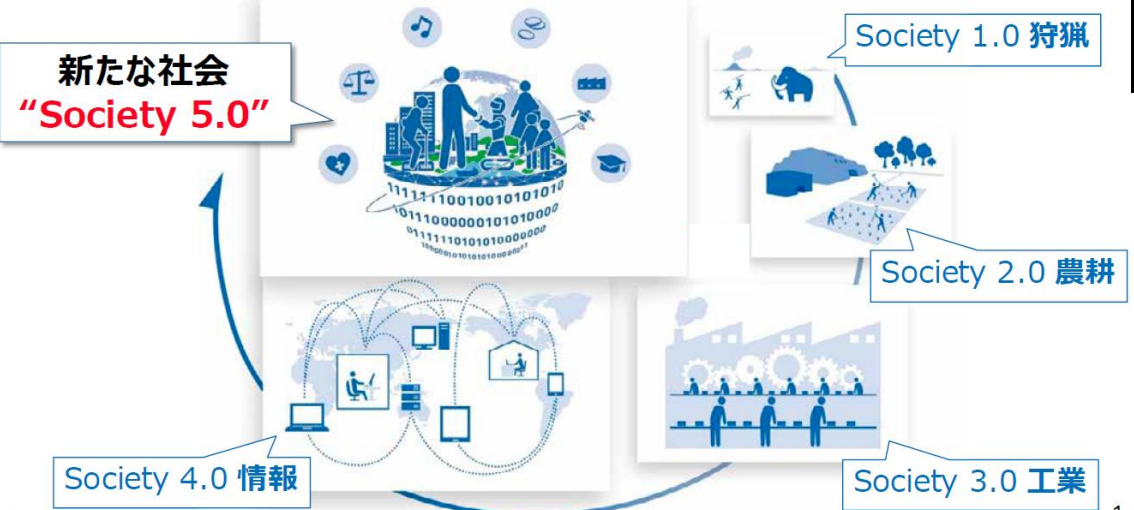
## —教職大学院の全県設置

### 全国の教職大学院の設置状況(2019年)

国立大学: 47大学(入学定員1,849人)  
 私立大学: 7大学(同 205人)  
 合計 54大学(同 2,054人)  
 \* 46都道府県で設置  
 大学名の下の( )は入学定員  
 (入学定員は予定数)



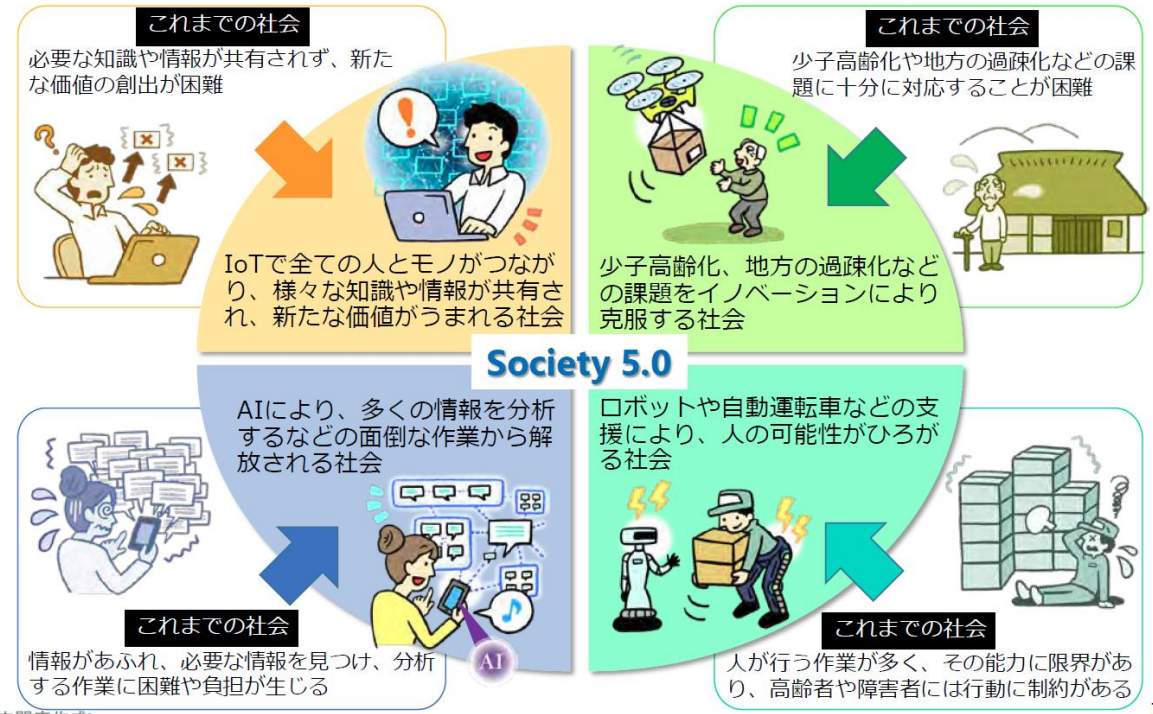
出典: 文部科学省総合教育政策局教育人材政策課調べ



[内閣府作成]

# 教員養成をめぐる環境の変化②

## —SOCIETY5.0、第四次産業革命



[内閣府作成]

内閣府作成資料  
[内閣府ホームページより]

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 「教員養成ならではの」海外研修の取組み 〔2019年度現在〕

- 『海外留学ガイドブックー大阪教育大学から、世界へ飛び立つ』の作成【大阪教育大学】

- ーグローバルセンターが提供する「交換留学制度」や「短期語学研修・文化研修プログラム」を一覧する。プログラム概要や協定校の紹介、先輩の体験談等を含む

- グローバル教員養成プログラム【北海道教育大学】

- ー国際社会で活躍できる人材を育てるため、高い語学力と豊かな国際感覚を養成

- グローバル教員養成プログラム【鳴門教育大学】

- ー幅広く、多様な見方や考え方、態度などを身につけ、国際化する教育に柔軟に対応

- グローバル教育演習（香港・タイ）【東京学芸大学】

- ー各種の学校参観、授業実践、教育関連施設の参観等、現地学生との交流等を通じて、海外の教育事情を学ぶ

etc. ★教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令の公布

- 在外教育施設での教育実習が可能に（2019年4月より）

# 教員養成ならではの国際的な大学間連携の動き 〔2019年度現在〕

- 日韓教育大学学長フォーラム
  - ― 韓国の初等教員養成大学と日本の教員養成単科大学の連携組織
- 日中教師教育研究集会【鳴門教育大学・北京師範大学】
  - ― 日本の教員養成系新構想大学と北京師範大学による教師教育研究に関する連携組織
- 教育に関する環太平洋国際会議【北海道教育大学】
  - ― 日本の教員養成系新構想大学と北京師範大学による教師教育研究に関する連携組織
- 百済文化シンポジウム【奈良教育大学・公州大学校】
- 東アジア教員養成国際コンソーシアム【公州大学校・ソウル教育大学校・北京師範大学・華東師範大学・大阪教育大学・東京学芸大学】
  - ― 日本・中国・韓国・台湾・モンゴルの46大学加盟

etc.





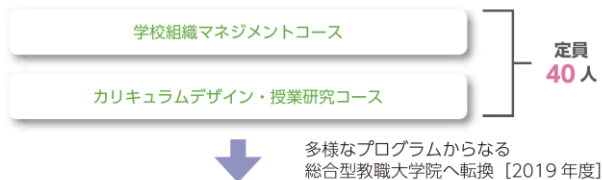
**教員養成分野のキャンパス・アジア**  
—日中韓3大学コンソーシアムの挑戦—

CAMPUS Asia

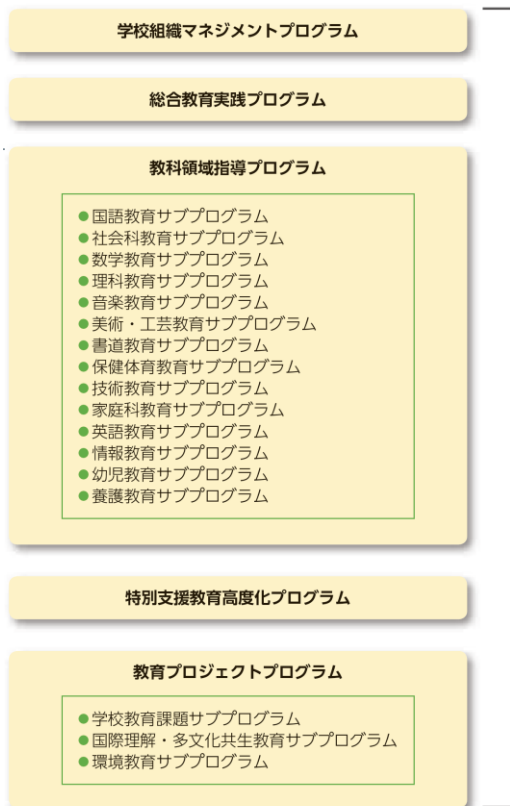


# 東京学芸大学大学院教育学研究科の改組 〔2019年度〕

改編前  
教職大学院



現行

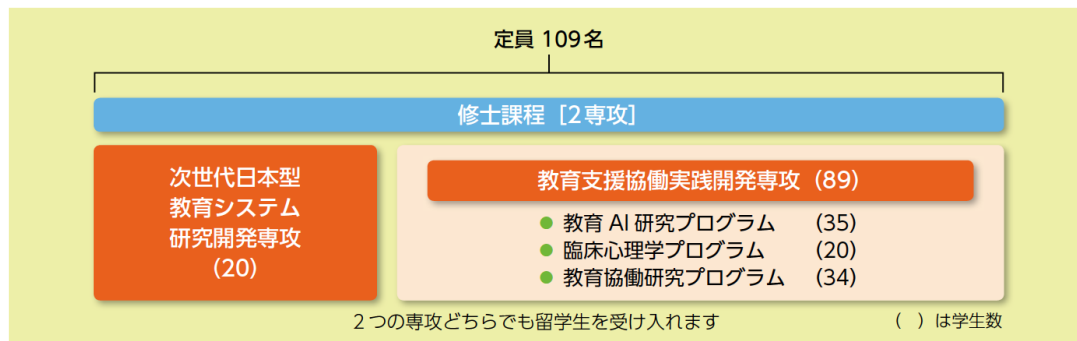


定員 210人

改編前



改編後



## キャンパス・アジア事業(概要)

### キャンパス・アジア事業：

2011年から開始された文科省による大学の世界展開力強化事業の一部

- 国際的に活躍できるグローバル人材の育成
- 大学教育のグローバル展開力の強化
- 学生交流の増加、高等教育質保証の共通ルール形成
- アジアにおける高等教育圏の形成

2016年度採択分：「キャンパス・アジア」事業の推進（新規分）

アジア諸国との大学間交流枠組みの強化

（タイプA：中国、韓国、日本の大学による単位互換、学位授与の枠組み構築）

### ◎ 東アジア教員養成国際大学院プログラム（2016年～2020年）

- 北京師範大、ソウル教育大、東京学芸大によるダブルディグリー・プログラム構築を通じたアジア圏での学校教育のリーダー・教育支援人材の育成
- 教育人材育成に関するアジア圏での参照枠構築



## キャンパス・アジア事業(目的)



ソウル教育大学校



東京学芸大学



北京師範大学

身につける力



養成人材

- 1) 学校教員、教育支援人材
- 2) スクール・リーダー、学校管理職
- 3) 上記学校教員等の養成と現職教員の研修にあたる大学教員



## キャンパス・アジア事業(具体的な内容)

- 1) 短期語学・文化研修プログラム (10日～3週間)
  - ・ SPTC (Summer Program for Trilateral Cooperation)  
2017年～2019年は、東京学芸大学で実施
  - ・ WPTC (Winter Program for Trilateral Cooperation)  
2017年～2019年は、ソウル教育大学校で実施
- 2) 交換留学 (1学期～)
  - ・ 学部段階 (留学生科目、学芸フロンティア科目)
  - ・ 修士課程段階 (キャンパス・アジア指定科目)
- 3) 修士課程におけるダブルディグリー・プログラム (2018年10月調印)
  - 北京師範大学 大学院外国語文学学院  
大学院教育学部 (2019年7月追加)
  - ソウル教育大学校 教育専門大学院
  - 東京学芸大学 大学院教育学研究科 (修士課程)
- 4) 国際シンポジウム (ICUE) の開催
- 5) ネットワークの構築
  - ・ キャンパス・アジアホームページ開設
  - ・ メールマガジン



## キャンパス・アジア事業(交流学生数)

2016年度				2017年度				2018年度			
派遣		受入		派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
6	5	6	14	16	32	16	42	18	87	18	50

(注1) 2019年3月までの交流学生数

(注2) 東京学芸大学からの派遣と、東京学芸大学への受入学生数  
(短期・長期を合わせた数)



# キャンパス・アジア指定科目（共通科目）

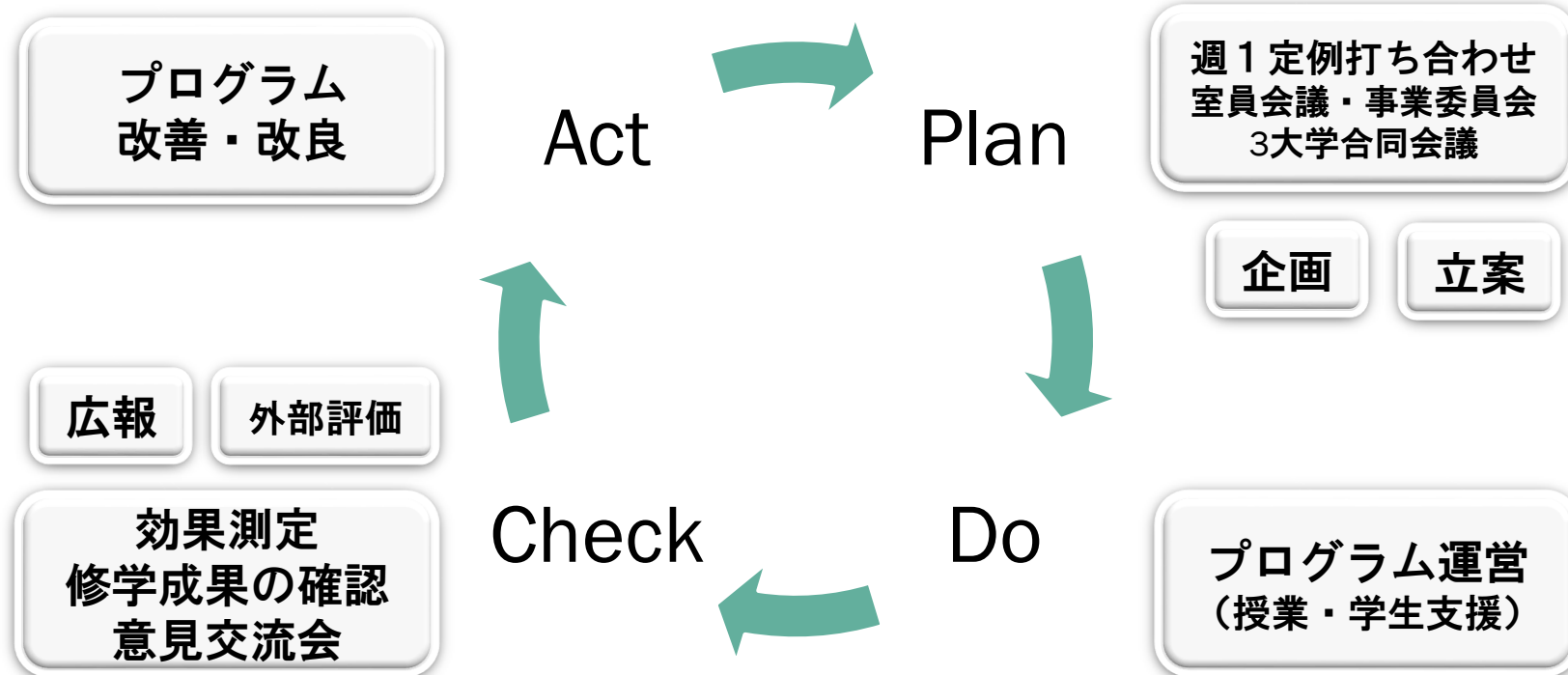
CAMPUS Asia Common Classes for Graduate Students (Master's Course)

Mapping of Acquirable Competences For Academic Year 2018



	Department/Major	Class	Unit is	Semester	Practical skills and teaching ability		Solution for educational issues				Ideas for the new classroom teaching
					School Education /Teacher	International/ cross-cultural Understanding	International /Global Education	Educational Disparity	School Curriculum	Learning Material	
Beijing Normal University	教育学部	中国古代教师史	2	2	●	●					
		东亚文化教育	2	2	●	●					
		国际理解教育の理论与实践	2	2			●				●
	汉语文化学院	中国文化专题	2	2		●					
Seoul National University of Education	Global & Cultural Studies Education	Understanding Global Studies Education	3				●				
		Global Culture and International Relations	3				●				
	Multi-cultural Education	Introduction of Multi-cultural Education Program/Curriculum	3				●		●		●
		Intercultural Communication Studies	3				●				
Tokyo Gakugei University	School Education	Seminar in Educational System I	2	Spring	●						
	School Education	Sociological Research in Education	2	Spring	●			●			
	International Understanding Education	Theory and Practice of Multilingual / Multicultural Education D	2	Spring						●	●
	School Education	Seminar of Teacher Education	2	Fall	●						
	School Education	Seminar of International Education B	2	Fall			●				
	International Understanding Education	Advanced Multilingual / Multicultural Education	2	Fall		●					

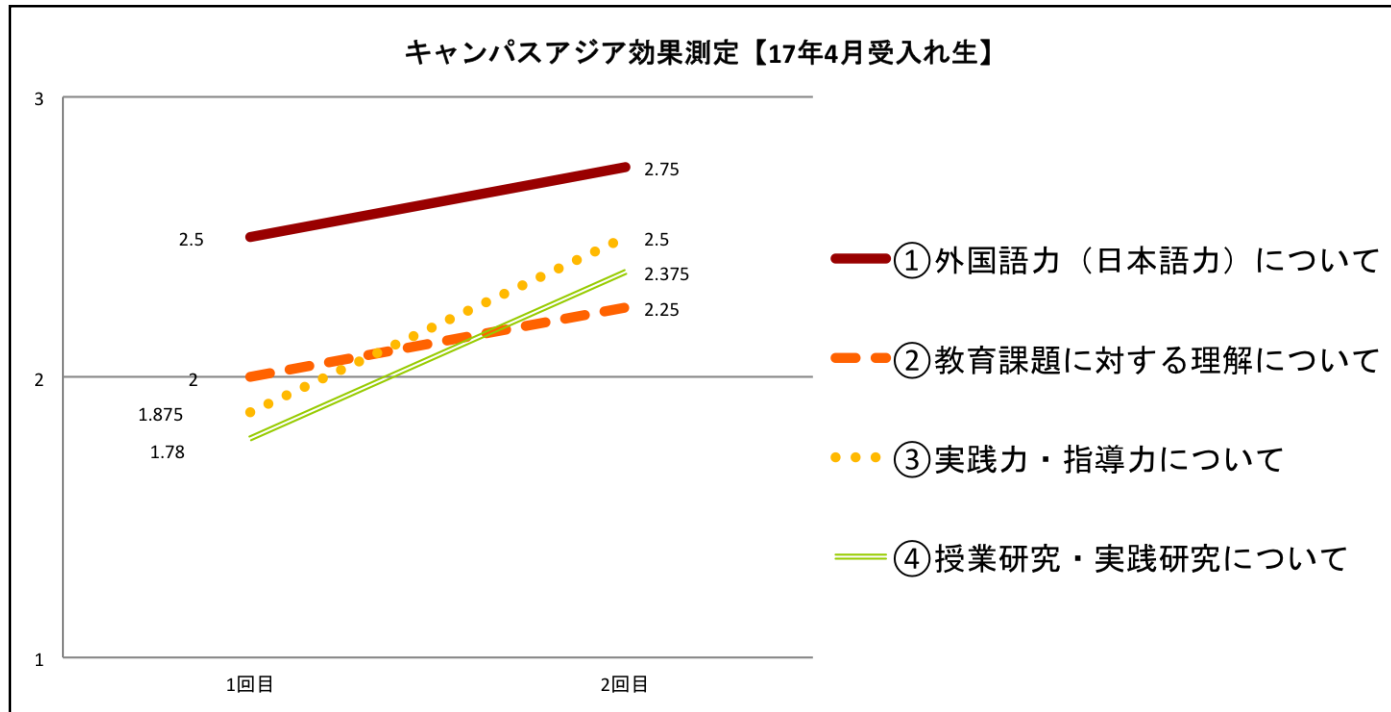
## 内部質保証システムのあらまし





4つの身につける力に関するルーブリック（受入れ学生用） ※来日時・帰国時に使用する			チェック欄
1. 外国語について 外語力が高い	高い効果	N1合格程度のリーディング・リスニング・ライティング能力と語彙力を身につけている。	<input type="checkbox"/> 3点
	中程度の効果	N2合格程度のリーディング・リスニング・ライティング能力と語彙力を身につけている。	<input type="checkbox"/> 2点
	さらなる努力を要する	N2合格にはいたらないが、その5割程度のリーディング・リスニング・ライティング能力と語彙力を身につけている。	<input type="checkbox"/> 1点
2. 教養に関する課題の理解 教養が深い	高い効果	アジアにおける複数の国・地域と比較しつつ、自国の学校教育ならびに関連する事項についての課題を科学的・系統的に把握し、その改善に向けた自分の考えをまとめることができる。	<input type="checkbox"/> 3点
	中程度の効果	アジアにおける特定国・地域と比較しつつ、自国の学校教育ならびに関連する事項についての課題を科学的・系統的に把握し、その改善に向けた自分の考えをまとめることができる。	<input type="checkbox"/> 2点
	さらなる努力を要する	自国の学校教育ならびに関連する事項に関する課題を把握し、その改善に向けた自分の考えをまとめることができる。	<input type="checkbox"/> 1点
3. 実践力 実践力が高い	高い効果	高度な知識と豊かな教養に裏打ちされた実践力・指導力を具体的な活動場面（授業時のグループ発表や各種行事等）において発揮できる。	<input type="checkbox"/> 3点
	中程度の効果	基礎的な知識と教養に裏打ちされた実践力・指導力を具体的な活動場面（授業時のグループ発表や各種行事等）において発揮できる。	<input type="checkbox"/> 2点
	さらなる努力を要する	具体的な活動場面で発揮できる十分な知識・教養と実践力・指導力の習得にはいたっていない。	<input type="checkbox"/> 1点
4. 授業研究・実践 授業研究・実践が深い	高い効果	アジア各国・地域が蓄積する授業研究・実践研究の方法を理解して、自らの授業又は各種実践を改善し、学校等、所属する組織の課題解決に寄与できる。	<input type="checkbox"/> 3点
	中程度の効果	アジア各国・地域が蓄積する授業研究・実践研究の方法を理解して、自らの授業又は各種実践を改善することができる。	<input type="checkbox"/> 2点
	さらなる努力を要する	アジア各国・地域が蓄積する授業研究・実践研究の方法に触れてはいるが、自らの授業又は各種実践の改善にはいたっていない。	<input type="checkbox"/> 1点

## キャンパス・アジア事業(効果測定)



- (注1) 2017年4月受入れ学生8名  
(注2) 来日時・帰国時学生評価の平均値  
(3点満点による自己評価)



# ホームページ、リーフレット、メールマガジン



CAMPUS Asia

東京学芸大学  
キャンパス・アジア室

- ホーム
- レポート&コラム
- 言語ラボ
- 合宿レポート
- 北京留学便り『月木通信』
- ソウル留学便り
- キャンパスアジアラウンジへのアクセス
- リンク集



Q Typ

カテゴリー

- ・ お知らせ
- ・ ソウル留学便り
- ・ 北京留学便り『月木通信』
- ・ 合宿レポート
- ・ 言語ラボ

最近の投稿

- ・ 月木通信 #0614
- ・ 月木通信

月木通信#0614

BY: GUOJIU | ON: 2018年6月14日 | IN: お知らせ, 北京留学便り『月木通信』 |

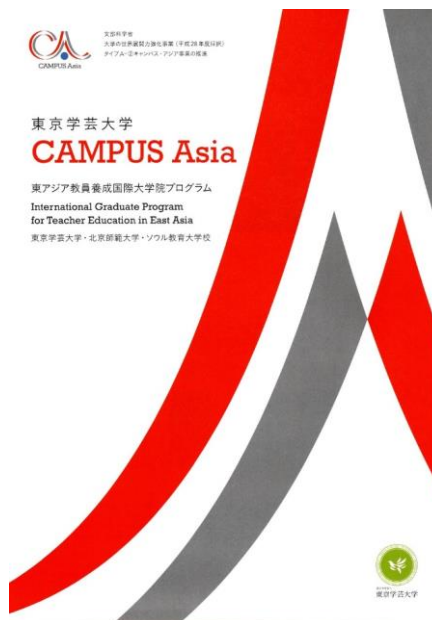
今日は結業典禮で、修了証書と成績を受け取った。成績には自分の努力が反映されていて、とても満足している。遂に全ての課程が本当に終了してしまった。なかなかタイミングが合わず、迷いに迷って決断した今回の留学だったが

READ MORE →



東京学芸大学  
CAMPUS Asia

東アジア教員養成国際大学院プログラム  
International Graduate Program  
for Teacher Education in East Asia  
東京学芸大学・北京師範大学・ソウル教育大学院



キャンパス・アジアリーフレット

■TGU■キャンパスアジアメールマガジン■

【2018年5月29日Vol.3 | 2018年春号】

※このメールマガジンは東京学芸大学キャンパスアジア

修了生・参加学生・関係者の方々に配信しています。

++++

お知らせ

++++

●東京学芸大学キャンパスアジア推進室です。

新年度も早2ヶ月が過ぎました。

4月から新たに10名の留学生を、

キャンパスアジアプログラム生として迎えました。

彼らの活躍を今後も発信していきます。

キャンパス・アジアホームページ

キャンパス・アジアメールマガジン



# 動画挿入

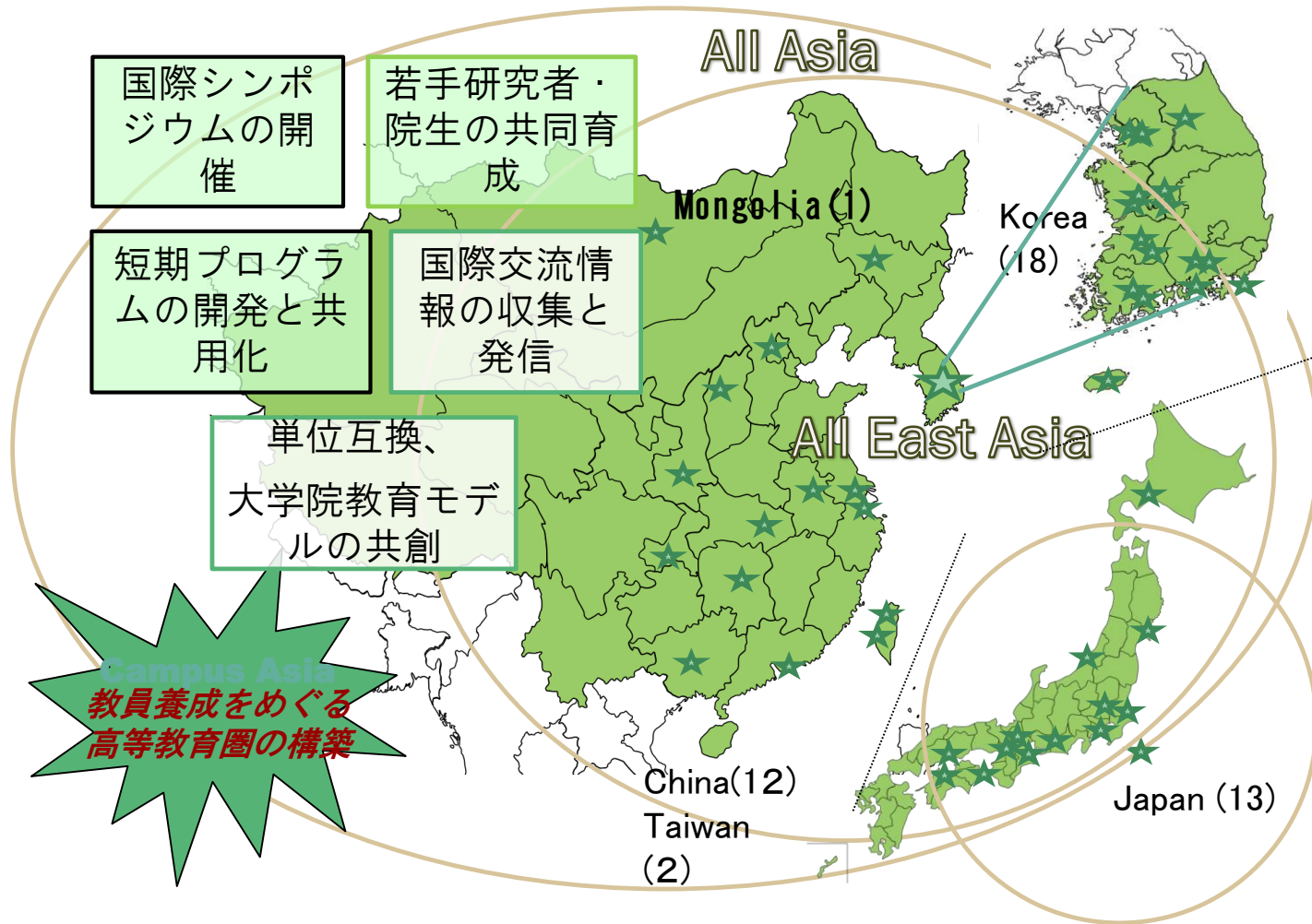
## キャンパス・アジア事業(課題)

事業開始から約3年が経過した現段階での課題  
(事業期間：2016年後半～2021年3月)

- 1) ダブルディグリー・プログラムの導入
  - ・ 東京学芸大学の大学院改組に伴う困難
- 2) バランスのとれた学生交流
  - ・ 日本から中国、韓国への留学生数が少ない
- 3) 学生の語学力を含めた資質・能力の学部段階からの育成(時間がかかる)
- 4) 人材養成に関わる成果評価とそのフィードバック
- 5) 3大学による安定的な枠組み構築
- 6) 東アジア教員養成国際コンソーシアム(ICUE)加盟  
大学との連携、博士課程への接続

# プラットフォームとしての東アジア教員養成国際コンソーシアム

ICUE



## 第8講③ まとめ

### ① 教員養成のグローバル化の背景や必要性について

- 2019年現在の教員養成をめぐる環境を概観—教職大学院全県設置等
- 次世代の教育にあたる未来の教師、つまり教職課程に学ぶ学生には、どのような資質・能力を身につける必要があるのか、そのために教員養成系大学・学部や教職課程では、どのようなカリキュラムやプログラムを設計し提供するのか、そして学生の異文化理解や多文化共生・共存に向けた知識・技術・態度をどのように伸ばしていくのか

### ② 教員養成のグローバル化と学生の学びに関わる具体的な事例

- 一定の実績を上げている「教員養成ならでは」の海外研修プログラムと10年程度歴史のある教員養成をめぐる東アジア地域の大学間連携の取組みについて紹介
- アジア地域の高等教育圏構築に、教員養成分野から取り組むキャンパス・アジアプログラム「東アジア教員養成国際大学院プログラム」の取組みについて、ダブルディグリー等、新たな動向を紹介

## 主要参考文献

- 岩田康之・三石初雄編『教員養成における「実践的」プログラム—中国の知見に学ぶ』東京学芸大学出版会、2019年3月
- 岩田康之「日本の教員養成系大学における短期海外研修プログラムの企画・実践・効果に関する考察—教職志望者の視野を外に開くカリキュラムづくり—」『日本教師教育学会年報』第27号、2018年9月
- 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科編『教育の国際化と学際化に向けて—広域科学としての教科教育学』東京学芸大学出版会、2018年3月
- 東アジア教員養成国際共同研究プロジェクト編『「東アジア的教師」の今』東京学芸大学出版会、2015年3月
- 田中光晴「教員養成課程のグローバル化に関する動向」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第63集第1号、2014年
- 東京学芸大学カリキュラム開発研究センター（研究代表者：岩田康之）『教師教育とグローバルイゼーション』2014年3月
- 東京学芸大学カリキュラム開発研究センター『東アジアの教師はどう育つか（韓国・中国・台湾と日本の教育実習と教員研修）』東京学芸大学出版会、2008年9月